



薬剤部季刊誌

75号

2025年3月発行

# くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

発行責任者 阿部 正樹

編集担当者 小池 淳

大手 直樹

## 第75回目のテーマは“FLSチーム”についての紹介です。

病院には ICT(感染制御チーム)や NST(栄養サポートチーム)など、患者様に質の高い医療を提供する為、多職種がそれぞれの専門性を活かしたチームを編成し活動しています。薬剤師も薬学の知識を活かし複数のチームに所属しており、今回は全国的にも比較的新しいチームである「FLSチーム」についてお話しします。

### FLS(Fracture Liaison Service:骨折リエゾンサービス)とは？

FLSとは、骨粗鬆症により骨折してしまった患者様の「再骨折を防ぐ」ための診療支援システムです。Fracture Liaison Serviceの頭文字をとった略語で、骨折リエゾンサービスとも呼ばれており、「リエゾン」とはフランス語で「連携」「橋渡し」を意味し、その名の通り、医療スタッフが協力しながら、再骨折のリスクが高い患者さんを特定し、適切な治療を継続できるよう支援しています。

当院では2023年4月にFLSチームを発足しました。医師を含む多職種のスタッフが日々話し合いながら、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できるよう努めています。また、FLSチーム以外の医療従事者にも定期的に勉強会を開催し、最新のトピックスや推奨される治療や注意点等を発信し共有しています。



FLSチーム



勉強会の様子

## 当院の FLS チームについて

当院の FLS チームは現在、医師 2 名、薬剤師 2 名、看護師 2 名、診療放射線技師 1 名、理学療法士 2 名、栄養士 1 名、MSW1 名、事務 1 名の計 12 名で活動しています。チームに所属している薬剤師は骨粗鬆症学会が認定する「骨粗鬆症マネージャー認定」を取得しています。当チームでの薬剤師の役割は主に①対象患者様の抽出、②治療薬の提案、③投薬状況の確認を行っています。

### ① 対象患者様の抽出

大腿骨近位部骨折(股の付け根の骨折)の手術した患者様を対象としていましたが、2025 年 1 月より椎体骨折(背骨の骨折)も含めて対象を拡大しました。今後は橈骨遠位端骨折(手首の骨折)や上腕骨近位端骨折(腕の付け根の骨折)も拡大していきたいと考えています。

### ② 治療薬の提案

骨も絶えず新陳代謝を繰り返しています。骨粗鬆症の治療薬は「骨を作る作用を促す薬」と「骨を壊す作用を抑える薬」に大きく 2 つに分類されます。それぞれの患者様の検査値や骨密度からより適した治療薬を候補に挙げ、医師と協議して治療薬を決めています。

### ③ 投薬状況の確認

骨粗鬆症は一度薬を投与したからといって治るわけではありません。骨の新陳代謝は約 3 ヶ月かかると言われており、丈夫な骨を維持することが大切です。骨粗鬆症の治療継続率は治療開始後 1 年間でおよそ 50%まで低下すると言われています。治療を中止してしまうとまた脆い骨に戻ってしまいますので、継続こそ力となります。注射剤を含めて開始された薬剤が正しく投与されているのかを看護師と連携して確認しています。治療を始める患者様が今後も継続していける薬を医師に提案するのも薬剤師の仕事です。

## 外来での骨粗鬆症治療について

骨粗鬆症の治療は継続が大切です。当院では「骨粗鬆症外来」を開設し、退院後も外来診察でフォローアップできる体制を整えています。また、他の医療機関からの紹介で、骨密度測定(DXA 法)を受けに来られる患者さんもいらっしゃいます。

## 骨粗鬆症治療のこれから

大腿骨近位部骨折について、その発症率はヨーロッパやアメリカ、オセアニアでは減少傾向にある一方で、日本はまだまだ増加傾向にあります。2012 年には約 19 万人でしたが 2040 年には 30 万人を超えると推測されています。

骨粗鬆症は生活習慣を見直す事も重要です。生活習慣を見直し、治療薬を続けていつまでも強い骨を残しましょう。



骨元気

次回は、2025 年 6 月「最新の骨粗鬆症治療と治療薬の注意点」について発行予定です。